

期成会広報
～お詫びと御礼について～

1 はじめに

石垣中学校では、昨年6月に戦後の教育制度改革による学校創立以来、七〇年を迎えました。同校においては、その節目に当たり、教育環境の更なる整備充実を図り、一層の発展継承を目的として記念事業を推進すべく、石垣中学校創立七〇周年記念事業期成会を設立し、以来黒島健会長を先頭に会員及び職員一同、事業の推進に取り組んでまいりました。

また、本年2月8日には、多くのご来賓の皆様、同窓会の会員の皆様、在校生の保護者の皆様、地域の皆様、企業の皆様等々のご列席を賜り、「石垣中学校創立七〇周年記念式典・祝賀会」を厳粛且つ盛会裏に開催することができました。

これもひとえに、皆様方が石垣中学校の教育活動に対する深いご理解と、温かいご支援、ご協力の賜物だと期成会会員及び職員一同心より感謝致しているところであります。

本来ならば、皆様方へ直接御礼を申し上げるべきところではありますが、今般のコロナ禍による自粛等により、期成会の会議開催等もままならず、期成会活動の停滞を余儀なくされているところであります。

日常の多忙な日々が経過する中、コロナウイルス感染の終息も垣間見えず、期成会においては総会開催等活動再開への糸口も見いだせず、皆様方に多大なるご迷惑をかけておりますことから、誠に勝手ながら本紙上をお借りして、皆様への御礼の挨拶がこれまで遅々として進まないことに対するお詫びと、記念事業における募金や物心両面等への温かいご支援ご協力に対する御礼のご挨拶にかえたく、今回この様な広報文の掲載に至ることになりました。

本当に申し訳なく思いますとともに、皆様方には心より厚く御礼申し上げます。

2 事業経過報告

期成会におきましては、上記のとおりこれまでに石垣中学校創立七〇周年記念の節目にあたり、記念事業を計画し推進してまいりました。

事業内容と致しましては、

- ① 教育環境の整備拡充（吹奏楽器の補充、学校図書増設、学校車の配備、シュレッダー裁断機の購入）
- ② 記念式典・祝賀会の開催
- ③ 記念誌の作成

等であり、その予算については、目標額を1,000万円

- 内訳
- 教育環境整備費 500万円
 - 記念誌編集費 300万円

- 式典祝賀会費 100 万円
- 運営費 50 万円
- 予備費 50 万円

と定め、予算の殆どを皆様方の募金に頼ってきましたところ、お陰様を持ちまして、目標額を大幅に上回ることが出来、初期の目的である上記①～③の事業について無事達成することが出来ました。

また、記念誌につきましては、年末までの完成を目途に現在、記念誌編集委員会において鋭意製作中でございます。完成の暁には皆様方の下へ早急に届けたいと思っておりますので、あと暫くの間お待ち願いたいと思います。

更に、付帯工事と致しまして、記念事業で購入した学校車の車庫の整備についても現在調整中でありますことをご報告致します。

皆様方からの多額の寄付により記念事業における教育環境整備充実等、当初の計画どおり購入することが出来ました。本当にありがとうございました。

3 購入物品

- ① 吹奏楽器 (ティンパニー 3 台)
- ② 学校車 (10 人乗りワゴン車 1 台)
- ③ 図書 (278 冊)
- ④ 裁断機 (1 台)

4 むすびに

在校生達も、七〇周年の歴史の重みを感じ、生徒主体で今記念行事に参加するなど、伝統ある母校の歴史を心に刻み、石垣中学校の誇りある生徒としての自覚を一層高めることが出来ました。

皆様方の温かい心配りに在校生一同感謝致しております。

また、この記念事業が同校のステップとなり、先輩方が築きあげてきた伝統を継承し、郷土の発展と教育活動の更なる充実に向け発展することは間違いなく、石垣中学校創立七〇周年記念事業遂行にあたり、多大なるご支援とご協力を頂きました全ての皆様方に重ねて厚く感謝申し上げますとともに、皆様方の益々のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

今後とも、皆様方のご活躍あらんことを期成会及び職員一同、心より祈念申し上げます御礼と致します。

令和 2 年 9 月 30 日
石垣中学校創立七〇周年
記念事業 総務委員会

石垣中創立70周年 記念事業協力を感謝

2/20(日) 期成会

石垣中学校創立70周年記念事業期成会(黒島健会長)は19日、八重山毎日新聞社を訪れ、記念事業への協力を感謝した。

黒島会長は「在校生はもとより、保護者、歴代校長、地域の方々の母校に対する思いを感じた。具志堅用高氏や大工哲弘氏など母校の卒業生が祝賀会に花を添えてくれた。式典当日には目標額の1000万も超えた。協力を感謝したい」とお礼を述べた。

宮良信浩校長は「感無

量。黒島会長を中心にOB、保護者、地域の方からたくさんのご厚情を頂いて子どもたちは幸せだなと思っている。13期生野球部の活躍をきっかけに石垣中の躍進がスタートした。この節目の年に天下の石垣中目指して頑張りたい」と話した。



記念事業のお礼を述べた石垣中学校創立70周年記念事業期成会の黒島健会長(右)ら19日午後、八重山毎日新聞社

石垣中学校創立70周年記念事業のお礼

初春の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度は、本校が初めて創立70周年を迎え、多くのご来賓の皆様、同窓会列席を賜り、石垣市立石垣中学校創立70周年記念式典および祝賀会を厳格かつ盛況に開催できましたことは、本校としてこの上ない喜びです。皆様のご厚意に感謝申し上げます。本校の教育活動に対する深いご理解と熱いご支援の賜であり、関係者一同心から感謝とお礼を申し上げます。

令和元年7月に、創立70周年記念事業期成会を設立し、PTA、保護者、同窓生、地域が一体となって記念事業を推進してまいりました。

記念事業達成のために記念式典をはじめ物心両面からの温かいご支援と個別のお力添えをいただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

皆様からの寄せいただいた大きなお礼状は、生徒の学習環境の改善と充実に伴って、今後の学校の活性化のため日々の授業のための読書指導、大切に活用させていただきます。

この機会に私たちは、多くの先輩の足跡を今一度見つめ直し、次代を担う子どもたちが未来に向けて明るくたくましく歩める夢を、一歩でも実現でき、より豊かな教育環境の整備とともに石垣中みなぎりを誇り、びくびくの備へ準備していきたく、決意を新たにしています。

また、生徒たちも70年の歴史の重みを感じつつ、創立記念行事を生徒主体のものにするという熱意のもと、生徒会役員会を中心に準備を進め、真摯な態度で式典に臨みました。生徒が学校の創立記念行事に主体的に参加することにより、これまでの学校の歴史や先輩方のご功績に思いを馳せ、母校の歴史を心に刻み、石垣中学の生徒としての自覚を一層高めてくれたこと、思いがたかです。

併え、創立70周年を迎えるにあたり、来賓・卒業生、地域の皆様方からお祝いのお言葉をいただき、本校自身も県内外で活躍中の大工哲弘氏、具志堅用高氏、ご両方の貴重な記念公報並びに講話、また、卒業生、在校生、校内の石垣新川の同地域学会の皆様、多数の皆様にも記念行事に大きな花を添えていただきました。

また、ご口には多くの保護者の皆様はもと手伝いをいただき、石垣中学校の一番の特徴である地域に支えられている学校を実感することができました。心から感謝申し上げます。

この記念事業が、本校の新しい時代へ向けてのステップの一つとなり、先方が築かれた校風や伝統を継承し、郷土の発展のために教育活動ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本校創立70周年記念事業進行にあたり多大なご支援と協力をいただきました全ての皆様方重ねて感謝申し上げます。お礼の言葉といたします。

令和二年一月十五日

2/15
19日

石垣市立石垣中学校創立70周年記念事業期成会

会 長 黒島 健
副 会 長 黒島 直 茂
参 考 (校 長) 宮 良 信 浩

副 会 長 大 浜 慶 功
副 会 長 入 藤 良 信
外 役 員 一 同

楽器や図書など贈呈

R2. 2/24 石垣中創立70周年記念事業で母校へ

石垣中学校創立70周年記念事業(黒島健会長)は24日、同校の修了式に合わせ、同校に楽器や図書、学校車、裁断機を贈った。70周年記念事業の一環。

期成会は70周年記念事業の寄付を募り、約1400万円集まった。寄贈品は、寄付金の一部を活用して購入した。

贈呈品の内訳は▽楽器ティンパニー3台▽図書278冊▽10人乗りワゴン車▽裁断機1台。

贈呈式で黒島会長は学校車のナンバープレートが「5470」となっていることを紹介。「いつよ(54)までも70周年(70)を忘れないという、すばらしいナンバー。皆さんに渡せてこ

れ以上の喜びはない」とあいさつ。

2年生で生徒会長の木伏



黒島会長(右)から木伏君に目録が贈られた。24日午前、石垣中学校

森蔵君は「たくさんの方の寄付金を頂いた。大切に活用したい」と感謝の言葉を述べた。

70周年記念式典・祝賀会は2月8日に行われた。5万円以上の高額寄付者は67

個人32団体の計67件あった。

追加の高額寄付者は次の皆さん。

- 黒島健、宮良信浩、伊舎堂用右、吉見武浩、大浜寛之、渡久山修、知念辰浩、徳山純英、徳松信男、武富弘次、桃原用光、ハナシロマサノリ、宮良光次郎、サクマナガヒコ、前原博一、大浜賢二、(有)名嘉商会、(有)丸栄タイル商会、(有)日栄電設興業、(有)桃原建材、まだんばし家、石垣設計室、(株)紫電舎、(有)黒島組、(有)稲福酒販、かなな歯科クリニック、(有)宮城菓子店、(有)川良山交通、美容室Y-21石垣店、(有)国仲スポーツ、(有)ブルーマリン石垣、(有)丸生重機、(有)ホンタ四駆大川モーターズ、宗教法人桃林寺、(有)大志土木、(有)安栄観光、太田保険事務所(株)、(有)成友興業

石垣中 期成会が募金呼び掛け

創立70周年記念事業実施

R元
8/28
18年



石垣中学校創立70周年記念事業費の募金に協力を呼び掛ける
期成会役員ら＝27日午後、八重山毎日新聞社

石垣中学校創立70周年記念事業期成会の黒島健会長ら役員が27日午後、八重山毎日新聞社を訪れ、総額1000万円を目標に行う事業費の募金に協力を求めた。教育環境整備費として図書、楽器、学校車の購入費に充てるほか、記念誌作成や来年2月8日に記念式典・祝賀会を計画している。同校は1949年に市街地で唯一の中学校として創立。ピーク時は生徒数2300人余り、48学級のマンモス校となり、64年に石垣第二中学校に分離された。卒業

生は2万971人を数える。同校卒14期生の黒島会長(71)は「石垣中学校の歩みは、そのまま石垣市の教育の歩みに等しい。学校を中心に保護者、PTA、地域が一体となって事業を成功させたい」、参与で27期卒の宮良信浩校長(59)は「卒業生が2万人もいるので、気持ち添えて、よい記念事業ができれば」と協力を呼び掛けた。

募金期間は9月10日～来年2月3日まで。指定の金融機関口座に振り込みで受け付ける。問い合わせは、期成会事務局(石垣中学校内・82-3070、ファクス82-4653、伊倉屋)。

黒島健会長に寄付金を贈呈する赤嶺明会長（中央左）ら11月13日午後、石垣中学校（同校提供）



石垣中22期同期会が
14万5000円贈呈
R.2.2/14.1 石垣年月
石垣中学校22期同期会
(赤嶺明会長)は13日、創
立70周年記念に向け14万5
000円を母校に贈呈し
た。
赤嶺会長ら役員が校長室
を訪れ、「後輩の教育活動

に使ってほしい」と寄付。
70周年記念事業期成会の黒
島健会長は「大切に使用せ

ていただく」と感謝した。
同校では3月末まで寄付
金を受け付けており、協力
を呼び掛けている。



母校に40万円寄付

R.元 12/21 毎
石垣中14期73歳
生年祝い実行委
古希祝いの余剰金

昭和22・23(1947・
48)年生まれの石中14期73
歳マリドゥシヌヨイ実行委
員会(池城孝会長)は25日、
古希祝いの余剰金40万円を
今年度創立70周年を迎え、
記念事業を計画する母校へ
寄付した。

池城会長は「教育環境整
備に使ってほしい」と述べ、
宮良信浩校長は「子どもた
ちのために活用したい。来
年2月の70周年記念式典祝
賀会にも精いっぱい取り組
みたい」と感謝した。

同会は11月に生年祝いを
行い、当初から余剰金を同
校へ寄付する計画だった。
黒島健事務局長は卒業

石中14期73歳マリドゥシヌ
ヨイ実行委員会のメンバー
が宮良信浩校長(右から2
人目)へ寄付金を贈呈した
11月25日午後、石垣中学校校
長室

から24年後の1987年
につくられた石中14期生・
同期会歌を紹介。歌に合
わせ振り付けし記念祝賀
会で披露することを明かし
た。

石垣中創立70周年
記念事業期成会に寄付

しま馬会喜寿
祝賀実行委
員会（大田義憲実行委員
長）は23日午前、石垣中学
校（宮良信浩校長）を訪れ、
創立70周年記念事業期成会
（黒島健会長）へ20万円を

寄付した。

11月1、2日に行ったしま馬会喜寿祝賀会^{（中略）}の余剰金。同会は同校9期生を中心に構成し、祝賀会には他校出身者を含め約130人が参加した。

大田会長は贈呈式で「少しでも後輩の役に立てれば」とあいさつし、宮良校長に寄付金を手渡した。

宮良校長は「目標額に向け徐々に集まりつつある。また力を合わせて頑張っていこうという気持ち。子どもたちのために大切に使用させていただきたい」と感謝した。

また同会は同日、八重山毎日新聞社を訪れ、県内マスコミ10社で受け付けている首里城再建支援のための県民募金に10万円を寄付した。



寄付金を手渡す、しま馬会喜寿祝賀実行委員会の大田義憲委員長（中央左）ら。23日午前、石垣中学校

あす石垣中70周年
記念式典・祝賀会

具志堅氏が記念講話

石垣市立石垣中学校の創立70周年記念式典が8日午後1時から、同校体育館で開催される。

式典では、卒業生で元プロボクシング世界チャンピオンの具志堅用高氏の「後輩へのメッセージ」と題した記念講話のほか、功労者などへの感謝状贈呈が行われる。

式典終了後の午後4時から体育館で祝賀会を開

く。14期卒業生の余興や卒業生で八重山民謡の第一人者、大工哲弘さんの記念公演などが行われ、創立70周年の節目を盛大に祝う。

石垣中の創立70周年 記念事業期成会設立

7/4
黒島健氏を会長選出

石垣中学校創立70周年記念事業期成会設立総会が1日、同校体育館であり、会長に黒島健氏が選出された。来年4月1日の創立記念日に向け、記念事業を展

開する。

同校は1949(昭和24)年4月1日、四力字唯一の中学校として生徒702人の14学級、職員24人の新体制で創立された。

生徒数は年々増加し、1964年には2300人余り、48学級のマンモス校になったため、石垣第二中が設立された。卒業生は2万9711人を数える。

期成会は「先人の労苦に感謝するとともに、子どもたちの教育環境の一段の整備・充実を図りたい」として募金などへの協力を求めていく。会長以外の役員は次の皆さん。

- ▽副会長 黒島直茂、大浜慶功、宮良直人▽参与 宮良信浩(校長)▽顧問 元校長▽監事 仲田森和、南和秀▽企画総務委員長 大浜賢二▽記念事業委員長 山城環▽募金委員長 石垣三夫▽記念式典・祝賀委員長 友利和正▽記念誌編集委員長 渡久山修▽事務局 伊舎堂用右(教頭)▽庶務 金城昌己(教務)▽会計 新城竜太

余剰金41万円 母校に寄付

石中26期還暦実行委

石垣中学校26期還暦同窓会実行委員会(宮良顕次会長)は3日午前、母校の石垣中学校(宮良信浩校長)に、11月2日に開いた還暦祝賀会の余剰金41万7052円を寄付した。

同校を訪れた宮良会長らが「石垣中学校創立70周年事業に寄付したい」と述べ、宮良校長は「期成会で大事に使わせていただきたい」と感謝した。

創立70周年事業期成会の黒島健会長は「先日記念植

樹も行い、70年の歴史の重みを感じた。記念事業にもご協力を」と呼び掛けた。

創立70周年記念式典は来年2月8日の予定。



祝賀会の余剰金を贈呈する宮良会長(左から3人目) 3日午前、石垣中学校

「人生は選択である」。

わたしたちは日々の生活で何かしら小さな選択をしながら過ごしている。高校受験や卒業後の進路、就職や結婚など人生の節目節目には大きな選択を迫られたり、あるいは積極的に選択したりする。その日々の小さな選択や節目節目の大きな選択の積み重ねがその人の人生といえる。

わたしは石垣中学校23期生。年齢を言えば数年前に還暦を終えた。

中学時代の私は色白で静かなシャイな生徒で、自称「紅顔の美少年」。あれから40年、「紅顔の美少年」は今ではただの「厚顔無恥の老人」。厚顔無恥に免じて言わせてもらえば、知名の士が集う「桜を見る会」にも招待されたいし、「叙勲」や「ノーベル賞」も頂きたい。が、それらと無縁の私が人生で

唯一表彰されたのは石垣中学校時代。全校集会でききなり名前を呼ばれ、全生徒の前で八重山警察署から表彰された。1つを拾って大川交番署に届けたのがその理由。「紅顔の美少年」は「善行の美少年」でもあった。

定年退職して数年になるが、目に見えて変

石垣中学校創立70周年記念リレーメッセージ②

人生は選択である 幾何学的な美しさを求めて

23期生 金城弘一

R2 1/26(日) 毎週

わたしたちは携帯の受発信が極端に減ったこと。たまに携帯が鳴れば家族からの電話やメール。年賀状も激減した。

ある学者の「人間の意味は人間の内部にあるのではなく、社会との関係の中にある」という文章の一節を学生時代は何げなく読み通

生産た。

「洗濯」については、以前から自分の才能にうすうす気づいていたが、その能力がいまや開花し「才能アリ」か

「特待生」「名人」をへて「永世名人」の域まで達している。とくに「干し」には

こだわりがあり、いかに太陽光を効果的に活用するか。前夜には翌

なるものは交互に等間隔で配置する。配置後の洗濯物は幾何学的に美しくなければならぬ。逆にいえば、幾何学的に美しく配置され干された洗濯物は乾きが早く仕上がりがよい。わが家は少人数の家族でありながら、夏場の多いときは日に2、3回、洗濯機を回す。日々の洗濯に費やす時間は少なくない。まさに「人生は洗濯である」。

◆石垣市立石垣中学校創立70周年記念式典・祝賀会
◆日時
2月8日(土)

◆記念講演
午後1時～1時40分
◆式典
午後1時50分～4時
◆祝賀会
午後4時～6時

◆会場
石垣中学校体育館
※祝賀会のチケットは期成会事務局扱い

日の天気を確認する。朝日を受ける午前中が勝負なので早い時間帯に干す。あるいは夜のうちに風にそよがせて水分を飛ばし、朝の強い日差しで仕上げる技も会得した。パソル型もの干しスタンドでは、すべて

の洗濯物に太陽光が当たるように、長さの異

70周年を迎えるこの年に、伝統ある石垣中学校の生徒会長を務められたとき、私は誇りに感じます。

私が生徒会長になったとき、先輩方「積極性の大切さ」を教えた。そして自分自身の経験です。私が入学した時の生徒役員は、自ら行動し、学校のために動き、学校を盛り上げるといふことを教えてくれました。そんな憧れであった生徒役員になりたいと思ひ、2年執行部に立候補し、1年間、3年生を支える立場で活動してきました。選拔さ

自分自身の経験を持つて、生徒会長に立候補しました。

生徒会長になってみると、うまくいかないこともたくさんありま

石垣中学校創立70周年記念リレーメッセージ③

も人一倍把握しなければなりません。その例として、「石中運動」を實踐しました。私は、「コミュニケーションを多く取ることを意識しました。」

また解決策を見つけた。その例として、「石中運動」を實踐しました。石中3点セットの「あいさつ・時間・美化」を「立ち止まりあたいと思います。」

私は生徒会とも、野球部にも所属していましたが、私たちが1年生の時、野球部の先輩方が県大会で優勝し九州大会でも好成績を収め、全国大会に出場しました。私たちも「同じ舞台に立ち、そして偉大な先輩方を超えたい」と思ひ、日々

ひたむきにやり組んだ日々が輝いている

生徒会長 平野素土

学校全体のリーダーとして、自分の仲の良い友達だけではなく、関わりが少ない他学年の生徒や、先生方のこと

多く取ること、相手への理解を深めること、より具体化し、強化しました。どれも簡単なものの人の意見を取り入れることができしのは難しかったです。

◆日時 2月8日(土)

◆記念講演 午後1時～1時40分

◆式典 午後1時50分～4時

◆祝賀会 午後4時～6時

◆会場 石垣中学校体育館

※祝賀会のチケットは期成会事務局扱い

石垣中学校 創立70周年で式典

教育功労者などに感謝状

石垣中学校(宮良信浩校長、生徒533人)の創立70周年記念式典(記念事業期成会主催)が8日午後、体育館で行われた。在校生や卒業生など多くの関係者が同校の歩みを再確認し、歴史的佳節を盛大に祝った。卒業生で元WBA世界ジュニアフライ級王者の具志堅用高さん(64)「新川出身」による記念講演、教育功労者や高額寄付者などへの感謝状の贈呈もあった。

石垣中学校は1949年4月1日に創立。「文武両道を校訓とし、これまでに2万9711人が卒業した。現在は新川、新栄町、石垣、真喜良、双葉などの地域を学区としている。

宮良校長はあいさつで「70周年を節目に、生徒一人一人が夢実現へ向けて大

勉学に励んでほしい」と在校生を激励した。

木伏森蔵生徒会長は「一人一人が頑張ることによって文武両道を達成し、それぞれの課題に取り組み、いざというときに、生徒全員で力を

感謝状受領者を代表し、元校長の南和秀氏が石垣中学校の縁を大切に、卒業しても会いたいと思わ

れる関係をつくってほしい」と生徒や教諭らに伝えた。

八重山教育事務所副所長の水秀所長、中山義隆石垣市長の代理で川満誠一副市長が祝辞を述べた。

石垣中学校創立70周年記念式典感謝状受領者

- 【元校長】 元校長 南和秀、南和秀
- 【PTA会長】 飯田実男、武富弘次、田口貴子、徳山純英、砂川正信、下地盛喜、玉代勢治
- 【教育功労者】

▽団体の部 崎原建設(崎原健)

▽個人の部 桃原用昇、多良間勉、大濱武、慶田盛みほ子、仲新城明美、富永忠明、玉城久、兼松良明

【高額寄付者】

▽個人 具志堅用高、島村修、野田純一、渡慶次賢康、金城文雄、森永用朗、大瀧長照、大底英一郎、大底次太郎、池原吉則、新垣隆頭、國吉理美、宮國京子、辻野信成、安里宜和、新田一雄、浦内克雄、モリヤママサノリ

▽企業 崎沖繩土木(当山喜一郎、向大祐士木設計(比屋根花、崎石垣生)コンクリート工業(兼盛博文、南西開発(玉城修)石垣鋼材(内間勝)黒島硝子(黒島安聡)金城かまぼこ(金城球二)山田書店(山田隆雄)向原商事(山原絹子)砂盛工業(砂川盛

星)

「大きな夢と素直な心を」

具志堅用高さんが講話



母校の後輩たちにメッセージを送る具志堅用高さん 8日午後、石垣中学校体育館

石垣中学校創立70周年記念式典では、元WBA世界ジュニアフライ級王者の具志堅用高さん(64)「新川出身」が講話し「大きい夢と素直な心を持って頑張りたい」と母校の後輩たちへメッセージを送った。

具志堅さんは、ボクシングを頑張ることができた理由について「石垣島の自然と人に鍛えられたおかげ。精神力と根性で何事も乗り越えてきた」と語り「プロ

になつて初めての世界タイトルマッチが決まった時は『沖縄のために頑張ろう。世界チャンピオンになつて石垣島に帰るんだ』という気持ちでリングに上がった」と若かりし日の思いを振り返った。

また「島を離れ、いろいろな人と会うときは、あいさつを絶対にして。何もできなくてもいいからあいさつだけはして」とその大切さを繰り返し説き「付き合い人を選ぶこと、ミスがあつても練習して立ち直つて。場所によつて判断と行動を素早く切り替えられる人になつて」などとアドバ



石垣中学校校歌を斉唱する卒業生や在校生ら=8日午後、同校体育館

各 位

石垣中学校創立七〇周年記念事業のお礼

初春の候 皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
この度は、本校がめでたく創立七〇周年を迎え、多くのご来賓の皆様、同窓会の会員の皆様、保護者の皆様、地域の皆様、企業の皆様など、関係者の皆様のご列席を賜り、『石垣市立石垣中学校創立七〇周年記念式典および祝賀会』を、厳粛かつ盛会に開催できましたことは、本校としてこの上ない喜びでいっぱいです。

これもひとえに皆様方の、本校の教育活動に対する深いご理解と熱いご支援の賜であり、関係者一同心から感謝とお礼を申し上げます。

令和元年七月に「創立七〇周年記念事業期成会」を設立し、PTA、保護者、同窓生、地域が一体となって記念事業を推進してまいりました。

記念事業達成のために募金をはじめ物心両面からの温かいご支援と格別のお力添えをいただきまして誠に有難うございました。

皆様からお寄せいただきました大きなお気持ちは、生徒の学習環境の改善と充実に充て、今後の学校の活性化のため、日々の授業のための施設整備等、大切に活用させていただきます。

この機会に私たちは、多くの先輩の皆様の足跡を今一度見つめ直し、次代を担う子どもたちが未来に向けて明るく、たくましく、今ある夢を一步でも実現できるような教育環境の整備とともに「石垣中みよや」を誇りに、広く社会の皆様へ発信していきたいと決意を新たにしています。

また、生徒たちも七〇年の歴史の重みを感じつつ、創立記念行事を生徒主体のものにするという熱意のもと、生徒実行委員会が中心となり準備を進め、真剣な表情で式典に臨みました。生徒が、学校の創立記念行事に主体的に参加することにより、これまでの学校の歴史や先輩方のご労苦に思いを馳せ、母校の歴史を心に刻み、石垣中学の生徒としての自覚を一層高めてくれたことと思います。

栄えある「創立七〇周年」を迎えるにあたり、来賓・卒業生・地域の皆様方からのお祝いの言葉をいただき、本校出身で県内外で活躍中の大工哲弘氏・具志堅用高氏、ご両名の貴重な記念公演並びに講話と共に各期卒業生、校区内の石垣・新川の両地域字会の皆様、多数の皆様にも記念行事に大きな花を添えていただきました。

また、当日には多くの保護者の皆様にもお手伝いをいただき、石垣中学校の一番の特徴である「地域に支えられている学校」を実感することができました。心から感謝申し上げます。

この記念事業が、本校の新しい時代へ向けてのステップにつながる礎の一つとなり、先輩方が築かれた校風や伝統を継承し、郷土の発展のために、教育活動のさらなる充実に向け、日々邁進する所存ですので、引き続き皆様方の温かいご指導を賜りますようお願い申し上げます。

本校創立七〇周年記念事業遂行にあたり多大なご支援ご協力をいただきました全ての皆様方に重ねて感謝申し上げます、お礼の言葉といたします。



令和2年2月吉日

石垣市立石垣中学校創立七〇周年記念事業期成会

会 長	黒島 健
副 会 長	大浜 慶功・黒島 直茂
	宮良 直人 (PTA会長)
参 与	宮良 信浩 (校長)
事 務 局	伊舎堂用右・金城 昌己
会 計	新城 竜太・貝盛 直美
企 画 総 務	大浜 賢二・宜野座安夫
記 念 事 業	山城 環・安慶名 誠
募 金	石垣 三夫・金城 賢介
式 典 祝 賀	友利 和正・山城結美子
記 念 誌	渡久山 修・宮良 直人
	他役員一同